

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第20週 (5/14-5/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		20週	19週	18週	17週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	15
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	24
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/14-5/20	5/7-5/13	4/30-5/6	4/23-4/29	5/7-5/13
			20週	19週	18週	17週	19週
小児科	RSウイルス感染症		0	2	1	12	11
			0.00	0.11	0.06	0.80	0.08
	咽頭結膜熱	○	5	1	0	2	74
			0.28	0.06	0.00	0.13	0.56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	66	47	19	39	443
			3.67	2.61	1.06	2.60	3.36
	感染性胃腸炎	○	157	113	43	115	607
			8.72	6.28	2.39	7.67	4.60
	水痘		4	20	2	19	104
			0.22	1.11	0.11	1.27	0.79
インフル	手足口病		2	0	0	0	7
			0.11	0.00	0.00	0.00	0.05
	伝染性紅斑		2	1	0	0	15
			0.11	0.06	0.00	0.00	0.11
	突発性発しん		14	19	9	17	76
			0.78	1.06	0.50	1.13	0.58
	ヘルパンギーナ		2	3	0	0	8
			0.11	0.17	0.00	0.00	0.06
	流行性耳下腺炎		4	1	2	2	20
			0.22	0.06	0.11	0.13	0.15
眼科	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2	5	5	16	41
			0.07	0.18	0.18	0.67	0.19
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	2
			0.00	0.00	0.20	0.00	0.06
眼科	流行性角結膜炎		1	1	0	0	21
			0.20	0.20	0.00	0.00	0.60
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
基幹定点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	4
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.44

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	男性	80歳代	病原体の分離同定等		男性	40歳代	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	80歳代	細菌の分離同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
					女性	10歳代	
梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出		女性	10歳代	

・第20週は、結核2件(71)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(6)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(13)、梅毒1件(11)、百日咳3件(20)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

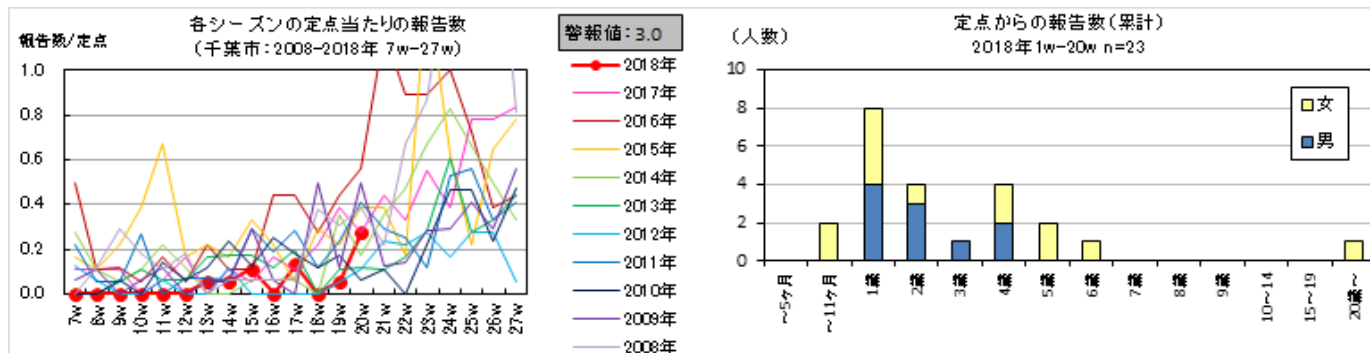
定点当たり報告数 第20週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.28となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなった。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。
 ＜感染性胃腸炎＞前週より増加し8.72となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

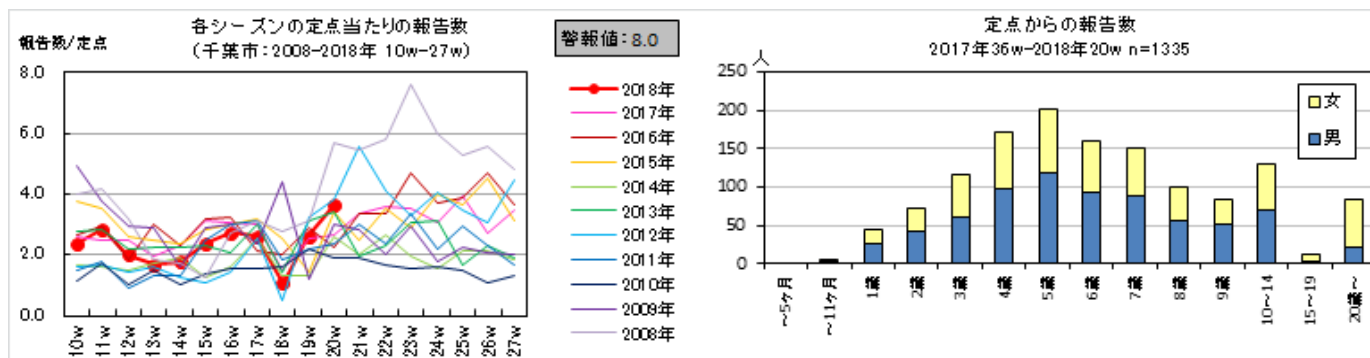
<咽頭結膜熱>

全国レベルの第19週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では佐賀県、鹿児島県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第20週は前週より増加し0.28となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなりました。区別の発生状況は、花見川区(1.5/定点)で最多で、同区の1歳、2歳及び4歳で発生報告がありました。2018年第1週から第20週までの累積報告数(n=23)によると、性別では男性が43.5%(10名)、女性が56.5%(13名)で、年齢階級別では1歳(34.8%:8名)、2歳及び4歳(共に17.4%:4名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第19週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では鳥取県、新潟県、福井県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第20週は前週より増加し3.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、緑区(6.0/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第20週までの累積報告数(n=1335)によると、性別では男性が54.5%(729名)、女性が45.5%(606名)で、年齢階級別では5歳(15.1%:202名)、4歳(12.8%:171名)、6歳(12.0%:160名)の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第19週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では大分県、鳥取県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第20週は前週より増加し8.72となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(16.5/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第20週までの累積報告数(n=3372)によると、性別では男性が53.0%(1827名)、女性が47.0%(1545名)で、年齢階級別では1歳(17.9%:603名)、2歳(13.6%:459名)、4歳(10.6%:359名)の順で多くなっています。

